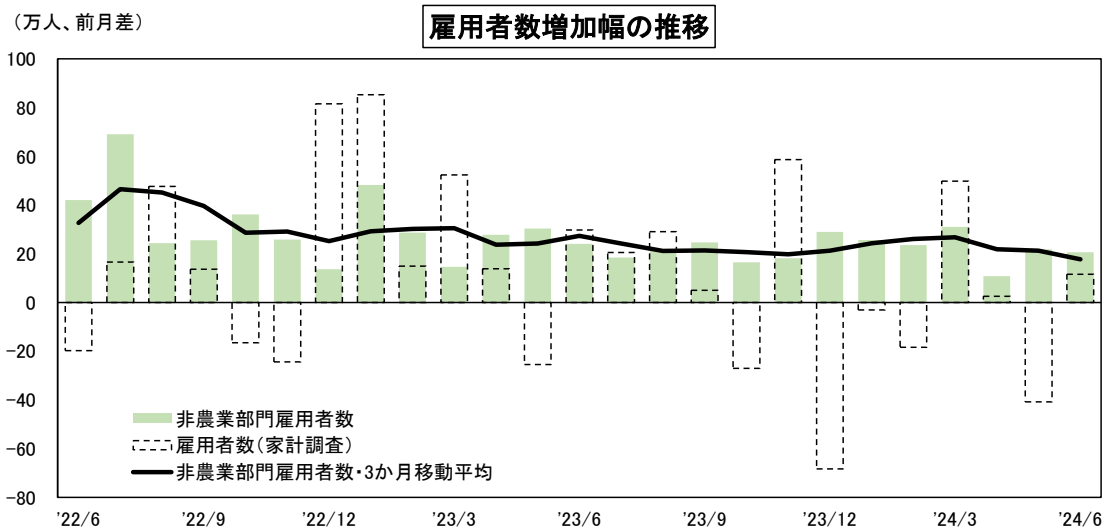
リサーチ＆ソリューション第１部　佐古 佳史

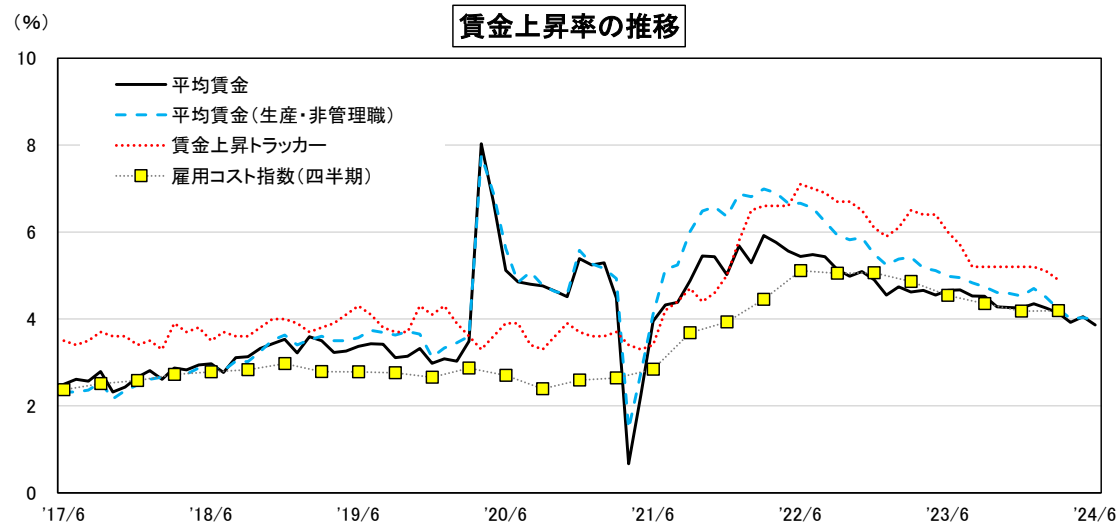
（米国）減速傾向の労働市場

6 月の雇用統計を確認すると、非農業部門雇用者数は前月から 20.6 万人増（事業所調査）と雇用増加ペースは鈍化した。4、5 月分の下方修正も大きかったことから、3 か月平均は 17.7 万人増となった。失業率は 4 か月連続の上昇となる 4.1%であった。



（資料）米労働省統計局、Refinitiv

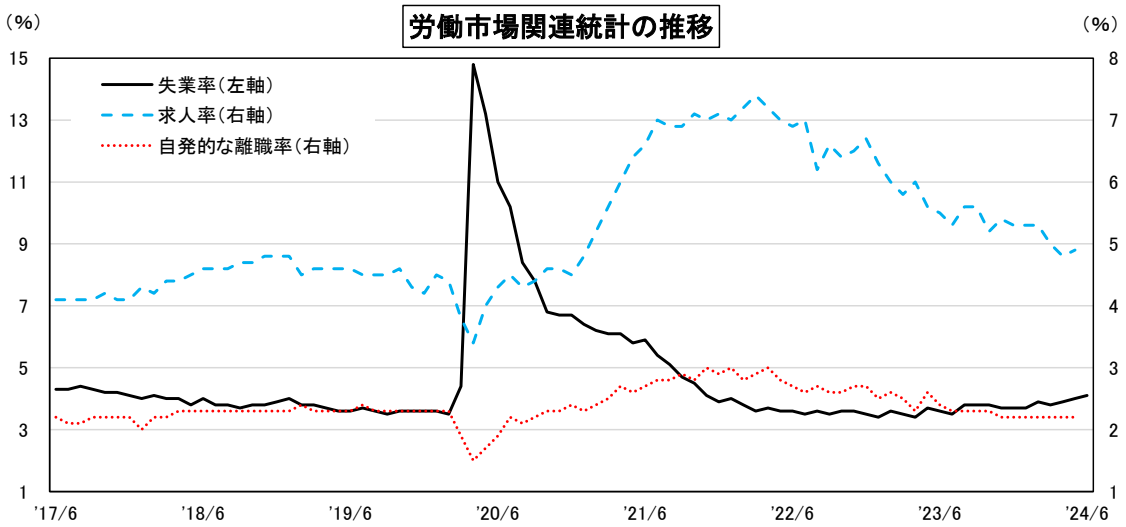
6 月の非農業部門民間平均時給は前年比 3.9%（前月比 0.3%）、生産・非管理職の時給は同 4.0%（同 0.3%）の上昇といずれも前月から鈍化した。賃金上昇率はやや高いものの、2%物価目標と整合的な上昇率と思われる前年比 3%半ばの上昇率にむけて、抑制が進んできたといえる。



（資料）米労働省統計局、アトランタ連銀、Refinitiv

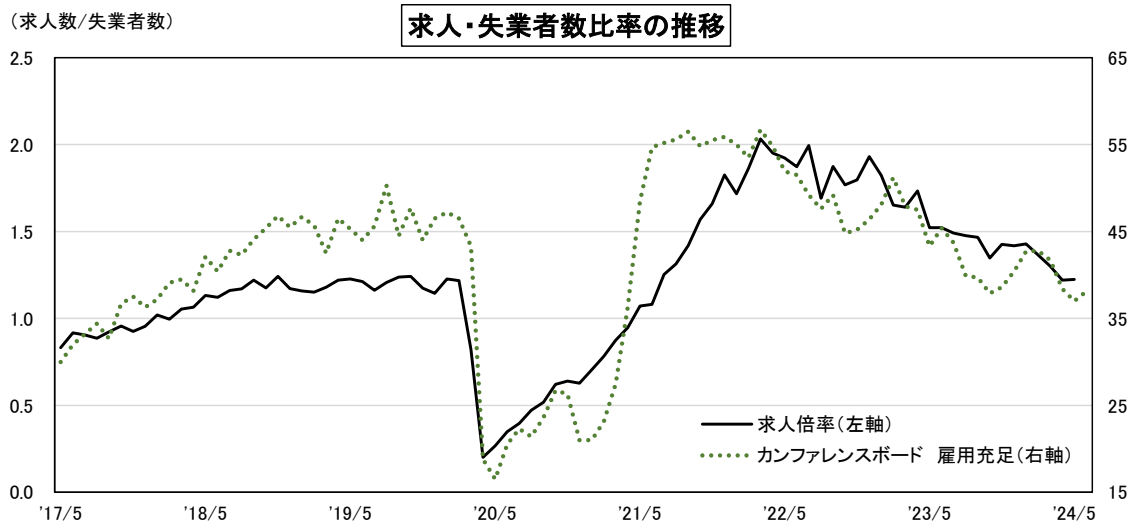
ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます　https://www.nochuri.co.jp/

5 月の求人労働異動調査によると、求人数は前月から 22.1 万人増加の 814.0 万となり、求人率（＝求人数÷（求人数＋雇用者数））は 0.1 ポイント上昇の 4.9%、自発的な離職率は変わらずの 2.2%となった。求人率の低下トレンドがうかがえる。



（資料）米労働省統計局、Refinitiv

求人数と失業者数の比率をみると、5 月は職を選ばなければ 1 人の失業者に対して 1.22 倍の求人が確認された。4 月以降、同比率はコロナ禍前の水準に概ね戻っている。



（資料）米労働省統計局、Refinitiv

賃金上昇率は依然としてやや高いものの、5 月の求人労働異動調査と 6 月の雇用統計からは、労働市場の減速傾向がうかがえる。今週は、パウエル FRB 議長の議会証言（9、10 日）と、消費者物価指数（11 日）に注目したい。

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます　https://www.nochuri.co.jp/